

## 第16回 厚木看護専門学校 教育課程編成委員会 議事録

日時：2023年7月6日(木)

16:00～17:05

場所：厚木看護専門学校 会議室

### 1 外部委員出席者（5人）

- (1) 三宅 正敬（厚木医師会 会長）
- (2) 北野 義和（厚木病院協会 副会長）
- (3) 神保 京美（伊勢原協同病院 副院長兼看護部長）
- (4) 山下 喜典（厚木市 市民健康部長）
- (5) 梅澤 広昭（神奈川県立厚木東高等学校 校長）
- (6) 欠席  
吉村由紀委員（神奈川県看護協会県央支部長）  
伊藤玲子委員（東名厚木病院副院長兼看護部長）

### 2 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 武藤和恵【委員長】、 副学校長 五十嵐一美【副委員長】、  
看護学科長 島田真由美、 看護学科総括主査 持木香代、 総務課長 茂木憲明  
（オブザーバー参加：看護学科総括主査 高橋隆子、看護学科主査 古山由佳）

### 3 議題等

- (1) 議題
  - ① 2022年度 学年目標とその到達度評価について
  - ② 新カリキュラムの取り組み報告
  - ③ 当校のICT整備状況について
- (2) (1)の議題に関する質疑応答、意見交換
- (3) その他  
2023年度4月入学生からの「ダブルスクール制度」の実施状況について
- (4) 配付資料
  - ① 2023年度入学生用 スクールガイダンス
  - ② 「ダブルスクール制度」リーフレット
  - ③ 2023年度 シラバス
  - ④ 2022年度 学年目標とその到達度評価について
  - ⑤ 新カリキュラムの取り組み報告
  - ⑥ 教育課程編成委員会名簿
  - ⑦ 教育課程編成委員会規程
  - ⑧ 座席表

## 4 内容等

### 【五十嵐副委員長】

配付資料の確認を行った。欠席者がいるが当委員会規程第5条第7項に基づき定足数は満たしている。

### 【武藤委員長挨拶】

2023年3月には、39回生が卒業し、国家試験合格率は97.7%であった。3年連続の合格率100%は叶わず残念であったが、合格率は大学、短大及び専修学校の全国平均を超えることができた。就職率は県内100%、県央地区80%、当校実習施設96%であった。

2023年4月に42回生（新1年生）が79人入学した。1・2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムと今年1年間は混在することとなる。

放送大学と当校の両方の学修を行うダブルスクール制度は、今年4月入学の42回生からスタートしているところで、現在、履修を希望した6人の学生が看護学士を目指し学修を進めている。

新型コロナウイルス感染症は、5類に移行したものの、実習病院はまだ厳しい状況下であり、当校でも臨地実習を見据え、実習室ではマスク着用を義務付けている。

本日は新カリキュラム施行2年目の状況を報告し、ご意見を踏まえ来年度に反映したい。よろしく願います。

### 【五十嵐副委員長】

外部委員紹介及び、当校教職員紹介を行った。

### 【持木委員】

配付資料①及び②に基づき、「議題① 2022年度学年目標とその到達度評価について」及び「議題② 新カリキュラムの取り組み報告」を説明した。

### 【古山オブザーバー】

各委員に当校iPadを配付し、「議題③ 当校のICT整備状況について」を説明した。

「教わる」ではなく「学びたくなる」授業づくりをしている旨を電子教科書と様々なアプリケーションを連携させて取り組んでいる状況についてiPad画面を使いながら説明した。

## 5 質疑応答

### 【武藤委員長】

本日欠席している伊藤委員から事前にご意見をいただいている。内容は次のとおり。

「2022年度学年目標とその到達度評価 資料をみると、2年生の到達度が他学年と比較して「そう思う」の割合が低いように感じる。何かフォローしていることはあるか」

### 【島田委員】

3年生は、臨地実習を重ねており、目標に対して実際に身につけているため満足度が高い。1年生は何事も新鮮であるため前向きな姿勢で学修に取り組んでいる。

これに対して2年生は、課題に直面し戸惑う時期である。今年の2年生は欠席が少なく、

自分の課題に向き合いながら前向きに取り組んでいると思う。新カリキュラムでは「解剖学」と「疾病と治療」が交互に段階的に進んでいく。実習も含め専門的な分野に進む際につまずかないよう、時点で知識確認を行い、とりこぼさないようフォローしている。

**【神保委員】**

2年生は「そう思う」の比率が低いのは毎年の傾向なのか。

**【島田委員】**

毎年、2年生は「そう思う」の傾向は低く「どちらかというと思う」が多くなる。

**【神保委員】**

2年生の「理想とする看護師像を目指し、目的意識をもって行動できた」の回答は「どちらかというと思う」のほうが「そう思う」よりも多く、臨床実習を受け入れている病院側として残念な面もあるが、現実をみてがっかりさせてしまったかと責任を感じる。

**【島田委員】**

2年生は、自分に知識・技術を身につけることだけで精一杯である。理想の看護師像に出会っていても気づいていないかもしれない。2年生はちょうど今の時期に臨地実習を行っている。数名の学生と話したところでは、実習で技術を身につけることでいっぱいになっている。

**【神保委員】**

3年生を対象とした臨地実習が年末まで続いたあと、翌年度7月から2年生の臨地実習が始まる。3年生に指導するレベルで2年生に指導してしまうところがあり、ついていけない可能性はある。2年生の技量に合わせて臨地実習指導を行わなければならないと感じている。

**【梅澤委員】**

議題①に近いアンケートを、高等学校の新任教員にとる機会がある。大卒すぐの新任教員の年代では、意外なことに「そう思う」に回答しない。はっきりできず、自信をもって回答しない傾向があり「どちらかというと思う」を選ぶ。これは例年変わらない回答傾向である。このため、「そう思う」が少なく「どちらかというと思う」が多くなったとしても、目くじらを立てなくてよいと思う。

一方で、高等学校新任教員アンケートで「子どもに関心がない」が0.5%。実人数で5～6人いる。この答えでよいのかと心配であり、不祥事を起こす確率が高い。特定し心配を無くすようフォローする必要があると感じている。

看護学校でも、最初から偏差値を基準に選び本当に看護師になりたいのかどうかははっきりしない学生さんはいると思う。無記名のアンケートを行うことは厳しいと思うが、回答で「そう思わない」学生さんのフォローが重要だと思う。

**【島田委員】**

当校入学後の1年生に実施する「基礎力リサーチ」で『看護師への関心度』結果を調べると、議題①のアンケート結果とほぼ等しい結果となる。「そう思わない」の回答は特定できており、教員が連携してフォローするようにしている。2年生になると、看護師になる意識が薄かった学生も、課程を着実に遂行している現状である。

**【武藤委員長】**

毎年3人から6人ほど退学者はでている。その理由の一番は学業についていられないことであるが、別の理由として、親から勧められて厚看に入学したものの、やっぱり違うなと感じてしまうことがあげられる。

**【梅澤委員】**

厚看ではキャリアデザインに取り組んでいる。看護師としてのキャリアを考える力を養い、様々なガイダンスを受けてキャリアアップしていく。その一方で高校を卒業後、動物の専門学校に入学したけれど、やってみたら人間が相手の美容がいいという学生もいる。高校教員として高校生のうちからキャリア形成を考えさせる取り組みを行わなければと感じる。

**【三宅委員】**

「どちらかというと思う」でも前向きな回答がこれだけ多いのであれば、それでいいと思う。

**【武藤委員長】**

一旦看護師の道を歩むと、他の道に進むのは難しい面があると感じている。それなのに就職して1年以内に離職してしまう人も一定数は存在する。一旦は卒業し看護師になり働くものの、その先のキャリア形成には様々なデザインがあることを知ってほしいと願っている。

**【神保委員】**

これだけフォローしてきたのに、すぐに退職してしまうと感じてしまうこともある。

これからも看護師の充足数は低い状況が続く。様々な体験をした多様な価値観をもった人も看護師としてキャリアを形成できるよう取り組まなければいけないと感じている。

**【山下委員】**

看護師になる人は、2年生で弱気になったとしても、最終的に卒業する際「どちらかというと思うわない」、「そう思わない」を選ばないでくれればよいと思う。

人口に対する保健師数においては、神奈川県が全国最下位なうえ、厚木市はそのなかでも低い。厚看での取り組みは保健師養成学校にも参考にしてほしい。

**【三宅委員】**

保健師と助産師は何が違うのか。

**【山下委員】**

看護師は病気やケガの治療にかかわることが主な役割。保健師は病気やケガを予防することが主な役割である。両方の資格を同時取得できる養成校もあれば、看護師資格を取得した人を対象に保健師資格取得養成をする養成校もある。

**【三宅委員】**

いずれの資格にも向き不向きがあるだろう。病院の現場で治療する仕事についての、向いていないと感じ、役場の病気予防活動の仕事で頑張るのもよいだろう。スキルを活かしてほしい。看護師から介護の仕事になってもいいと思う。医師も臨床だけ行っていけばいいわけではないのだから。

**【神保委員】**

当院（伊勢原協同病院）に看護師採用され、3年程度実務経験を積み、保健師になる人は毎年1人～2人程度いる。

**【武藤委員長】**

保健師は、新型コロナウイルス感染症流行の対応で脚光を浴びた。卒業生はまず急性期病院の希望する傾向がゆるぎないが、そればかりではない。勤め先を変えながら経験を活かしキャリアを積み上げて行ってほしい。

**【北野委員】**

潜在看護師もかなりの数がいるのではないか。

**【神保委員】**

現在、約70万人の潜在看護師がいる。これらの人にも復帰してもらいたい。

**【三宅委員】**

働きやすい環境を整え、少しでも職場復帰してほしい。

**【神保委員】**

当院（伊勢原協同病院）では、子どもが幼稚園に通っている時間帯をスポットにした10時から14時までのシフトを設けており、活用している看護師がいる。

**【三宅委員】**

我々医療者の働き方改革にもつながってほしい。医師が特に問題視されているが、看護師も同じだと思う。

## **6 その他**

2023年度4月入学生から導入している「ダブルスクール制度」の実施状況について

**【五十嵐副委員長】**

1年生のダブルスクール受講希望者6名全員が順調に前期分の3科目6単位を学修しており、6月には受講が終了している。今後7月中旬に前期試験に取り組む予定である。

以上